

2022年2月

安藤礼二・初監修

## まれびとと祝祭

祈りの神秘、芸術の力

- 会期 2022年3月2日(水)～2022年8月21日(日) 11時～19時 休館日:月・火曜日
- 会場 日本橋高島屋 S.C. 本館4階 高島屋史料館 TOKYO ■入館無料
- 監修者 安藤礼二(文芸評論家・多摩美術大学教授)

※会期中、安藤礼二氏によるオンラインセミナー(録画映像)の開催を予定しております。詳細は当館 HP をご覧ください。

### 企画主旨

本展では、まれびとと祝祭を現在の視点からとらえ直したいと思います。古より人類は、幾度も疫病の脅威にさらされてきましたが、我々は祝祭(祭り)と、その時間的・空間的中心に現れるまれびと(来訪神)を信仰することにより、それらを乗り越える経験を重ねてきました。

感染症パンデミックにより、不可避的に閉ざされた関係を強いられている現在だからこそ、改めてまれびとと祝祭に目を向け、これら根源に立ち返ることが、現状を打ち破るヒントになるのではないかと考えます。

まれびとは、民俗学者であり国文学者でもあった折口信夫(1887-1953)が提唱した概念です。折口はそれを、祭祀などに、超現実の世界から現実の世界を訪れて、またもとの世界にかえってゆくという、人間を超えた存在としています。

そもそも時間や空間を一新する強大な力を持つまれびとは、もたらし/追いはらう、という両義性を持つ存在でもありますが、それはすなわちまれびとが、異物としてもたらされた病でもあり、そしてその病を彼方へ追いはらって救いをもたらす神でもあるということを意味しています。

こうした一見矛盾する概念が同居する状況を、古代から私たちの社会が内包してきたことは、コロナ禍によって混迷した状況を、いま一度立ち止まって考察する契機にもなるでしょう。そして同時にそれは、分野を超越して一つにつながり合わせるという、これからの芸術表現の可能性も示すことになるでしょう。

\*2018年には「来訪神:仮面・仮装の神々」がユネスコの無形文化遺産に登録されるなど、世界的にも災厄をはらって幸福をもたらす来訪神(折口がいう「まれびと」)が注目を浴びています。

### 講演会開催のご案内

会期中、本展を監修した安藤礼二氏(文芸評論家・多摩美術大学)によるセミナー(録画映像)の Web 上での公開を予定しています。詳細は決定次第、当館 HP にてご案内します。

高島屋史料館 TOKYO HP <https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo/>

**展示内容**

■ボゼ 鹿児島県十島村悪石島、2006、撮影：石川直樹



■パーントゥ 沖縄県宮古島市平良島尻、2006、撮影：石川直樹



■東京店壁画原画、1952年頃、画：岡本太郎(高島屋史料館蔵)



■ナマハゲ 秋田、1957、撮影：岡本太郎(川崎市岡本太郎美術館蔵)



■マスク 1970、作：岡本太郎(川崎市岡本太郎美術館蔵)

